

平成25年度判事補海外留学研究員報告書簡（第6回）

氏 名 坂 川 波奈子	所属庁・官職 津地方裁判所 判事補	派遣先 アメリカ合衆国イリノイ州 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校
提出書面 平成26年4月30日付け報告書簡		
報告期間中の日程の概略（平成26年3月17日～平成26年4月27日） 平成26年		
3月17日～	引き続きイリノイ大学ロースクール春学期講座の受講	
3月24日	合衆国連邦最高裁判所で法廷傍聴	
4月1日	教授，客員研究員，JSD生らの交流会	
4月4日	イリノイ州中部連邦地裁アーバナ庁舎において法廷傍聴	
4月8日	学内模擬裁判コンテストの見学及び祝賀会への参加	
4月12日	[REDACTED]への参加	
4月21日	2014年度卒業生（JD生及びLL.M.生）合同の夕食会への参加	
4月25日	刑事弁護人を対象としたシンポジウムへの参加	
その他，適宜，シャンペーン郡裁判所において法廷傍聴を行ったり，学内講演会に参加するなどした。		
キーワード欄		
・イリノイ大学ロースクールにおける研究		
・学内講演会・イベント等への出席		
・合衆国連邦最高裁判所の訪問		
・当地の裁判所における法廷傍聴		

平成26年4月30日

最高裁判所事務総局秘書課長 殿

判事補海外留学研究員

津地方裁判所判事補 坂 川 波奈子

(派遣先 米国イリノイ州イリノイ大学)

拝啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

平成26年3月17日から同年4月27日までの研修の状況につき、
別紙のとおり報告いたします。

敬 具

第1 イリノイ大学ロースクールにおける研究

現在、引き続き、イリノイ大学ロースクールにおいて、授業の聴講を中心とした研究を続けている。3月から4月にかけては、学内で多数の講演会や大学主催のイベントが開催され、私もいくつか参加した。そのうち、印象的だったものについて報告したい。

- 1 3月17日から同月20日にかけて、“Breaking Glass Ceiling”と題する、両性の平等をテーマとしたシンポジウムが開催された。ゲストスピーカーによる講演会、女性実務家（[REDACTED]、[REDACTED]、[REDACTED]、州検察官等）によるパネルディスカッション等を通し、女性が社会進出する中で、いかに偏見（「ガラス天井」、Glass Ceiling）を打破していくかが問題として提起された。とりわけ、女性弁護士の苦労体験談や実践的なアドバイス（ゴルフを嗜むなど）は印象深く、女性の社会進出に伴う問題は全世界共通であることを実感させられた。
- 2 4月8日、学内で、第6巡回区連邦控訴裁判所の[REDACTED]、アイオワ州北部連邦地裁の[REDACTED]及びニューヨーク州南部連邦地裁の[REDACTED]を裁判官役に迎えて、4名の学生による模擬裁判コンテストが行われた。コンテスト終了後には、ゲスト裁判官、地元の裁判官、教授、職員、模擬裁判の授業を選択した学生等が参加しての祝賀会が催され、客員研究員も招待されたため、参加した。
- 3 4月9日、ロースクール内で、[REDACTED]で労働法を研究されている[REDACTED]が、日本における終身雇用制の変化と非正規雇用労働者に関する法改正について講演され、これを聴講した。
- 4 4月25日、ロースクール内で、刑事弁護人を対象としたシンポジウムが開催された。聴講中のホワイトカラー犯罪を担当されている[REDACTED]が同シンポジウム開催に関与されており、同講義の受講生は、最低1コマのセッションへの参加が義務付けられていたため（休

講の代替措置とのことである)、私も学生らとともにいくつかのセッションを聴講させて頂いた。今回のシンポジウムのテーマはディスカバリーであり、特に、iPad、エクセル、PDF、クラウドなどの電子ツールの特徴や活用法をゲスト講師が詳しく紹介されるなど(なじみのないツールも多数あった)、現代の急速な電子化への対処が刑事弁護人にとっても大きな課題となっていることがうかがわれた。

第2 裁判所の訪問について

- 1 3月24日、春期休暇を利用して、ワシントンDCに所在する合衆国連邦最高裁判所を訪問した。連邦最高裁の口頭弁論は、毎年10月から4月までの各月2週間程度の月曜日から水曜日に開廷され、開廷日や事件名、争点等は、連邦最高裁のホームページで確認できる。当日は、破産者が相続した退職基金が、連邦破産法522条により破産財団から除外される「退職基金」(retirement funds)に該当するかどうか争点とされた事件の口頭弁論が開かれた。開廷時刻(午前10時)の約1時間半前には連邦最高裁に到着し、先着順の一般傍聴券を求めて行列に加わったが、既に午前7時半頃に約100名に対して傍聴券が配布された後であり、3分間交代の傍聴しか許されなかった。口頭弁論全体を傍聴できず残念だったが、わずか3分の間でも、3名の最高裁判事が当事者に対して質問を投げかける様子(被告の弁論が始まってすぐに判事が質問されていた)を見たり、博物館にもなっている連邦最高裁の内部を見学できたのは、貴重な経験であった。

- 2 4月4日、イリノイ州中部連邦地裁アーバナ庁舎において、[REDACTED]の判決宣告手続を傍聴した。これは、[REDACTED]が被告人の弁護人を務められている事件で、ホワイトカラー犯罪の講義の中で学生に傍聴の案内をされたものである。その他、授業の合間にシャンペーン郡裁判所を数回訪問し、刑事裁判や家事事件等を傍聴した。

平成 2 5 年度判事補海外留学研究員報告書簡（第 7 回）

氏 名 坂 川 波奈子	所属庁・官職 津地方裁判所 判事補	派遣先 アメリカ合衆国イリノイ州 イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校
提出書面 平成 2 6 年 5 月 1 9 日付け報告書簡		
報告期間中の日程の概略（平成 2 6 年 4 月 2 8 日～平成 2 6 年 5 月 1 8 日） 平成 2 6 年 4 月 2 8 日～ 引き続きイリノイ大学ロースクール春学期講座の受講 4 月 3 0 日 学内講演会の聴講（元受刑者による講演） 5 月 5 日 イリノイ大学ロースクール春学期講座の終了 5 月 5 日～ イリノイ州第 6 巡回区シャンペーン郡裁判所及びイリノイ州 中部地区連邦地裁アーバナ庁舎において法廷傍聴 5 月 1 7 日 イリノイ大学卒業式		
キーワード欄		
・イリノイ大学ロースクール春学期講座の所感		
・イリノイ大学の卒業式		
・イリノイ大学ロースクール・[REDACTED]の退任		
・イリノイ州第 6 巡回区シャンペーン郡裁判所及びイリノイ州中部地区		
連邦地裁アーバナ庁舎における法廷傍聴		

平成26年5月19日

最高裁判所事務総局秘書課長 殿

判事補海外留学研究員

津地方裁判所判事補 坂 川 波奈子

(派遣先 米国イリノイ州イリノイ大学)

拝啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

平成26年4月28日から同年5月18日までの研修の状況につき、
別紙のとおり報告いたします。

敬 具

第1 イリノイ大学ロースクール春学期講座の所感

1 ホワイトカラー犯罪 (White Collar Crime)

■■■■■として40年以上のご経験を持つ■■■■■担当の75分×週2コマの講義である。脱税、汚職、マネーロンダリング、詐欺等のいわゆる「ホワイトカラー犯罪」(この定義自体、難しいところであるが、ケースブックには、粗暴犯、薬物犯罪、組織的犯罪、政治的犯罪、通常の窃盗・風俗犯罪を除いたものと定義されている。)について、各論的に考察がなされた。各回に指名される学生が前もって決められており、教授がケースブックに沿って担当者に判例の内容等を尋ねながら授業が展開される。授業中に検察官や弁護人を招いてのパネルが催されたり、前回書簡で報告した刑事弁護人向けのシンポジウムへの参加を義務付けるなど、講義以外にも興味深い試みがあった。

2 刑事訴訟法：公判 (Criminal Procedure: Adjudication)

刑事科目について定評のある■■■■■

■■■■■担当の75分×週2コマの講義である。秋学期に受講した「刑事訴訟法：捜査」と同じケースブックを用い、身柄手続、起訴、大陪審、証拠開示、司法取引、陪審トライアル、上訴等の刑事公判手続全般を扱った。パワーポイントや学生との対話を有効に用いながら、公判手続の概要を説明していくレイポルド教授の授業スタイルは、評判に違わず、抜群の安定感であった。

3 LL.M.生向け民事訴訟法 (Civil Procedure for LL.Ms)

■■■■■担当のLL.M.生を対象とした75分×週3コマの講義であり、50名程度のLL.M.生が受講している。スライドや教授オリジナルの仮想設例を用いながら、LL.M.生向けに噛み砕いて説明され、教授の話し方もゆっくりなので、米国の民事訴訟法を学ぶのは初めてである私にとっても大変わかりやすい授業であった。

周囲の LL.M.生からの評判も高い。講義の大半を占めたのが管轄のテーマであったことは驚きであり、連邦制を採用する米国においては、当事者の訴訟戦略として、どの管轄で訴訟を行い、どの法律が適用されるかということが、大変に重要であることを実感した。

第2 イリノイ大学の卒業式

5月17日、午前中に大学全体の卒業式が行われ、午後よりロースクールの卒業式が行われた。客員研究員は卒業生ではないが、卒業生の家族等とともに、ゲストとして卒業式その他のイベントに参加した。

第3 イリノイ大学ロースクール・[REDACTED]の退任

[REDACTED]
[REDACTED]されることが発表された。[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]とのことである。同日以降、これまでも [REDACTED]
[REDACTED]が暫定的な学部長に就任されるが、正式な学部長は、「国家的な調査」を経てから決定され、決定時期は不明である（[REDACTED]の談話によれば、翌々年度までには決定するのではないかとのことである。）。学部長の交代により裁判所からの客員研究員の受入れに大きな影響がある訳ではないが、ロースクールのトップの交代という重要なニュースであるため、報告する次第である。

第4 当地の裁判所における法廷傍聴

ロースクールの授業終了以降、まとまった時間が取れるようになったため、時間の許す限り、シャンペーン郡裁判所や連邦地裁アーバナ支部を訪れ、これまで授業との兼ね合いでなかなか傍聴する機会に恵まれなかった刑事陪審裁判のほか、各種刑事事件、民事陪審裁判、家事事件等の傍聴を行っている。詳細は次回以降の報告書簡で述べたい。